

「ご当地検定」は「地域力」を高められるか
～最近の動向と地域振興への展開可能性について～

を問うならば、この試験やテキスト作成などにかかわる支出程度に過ぎないであろう。むしろ、この「ご当地検定」からどのような波及効果が生じるかが重要である。

現在実施されている「ご当地検定」はいずれも歴史が浅く、その活動成果から効果を測定するのはまだ難しい。しかし、これまでみてきたように、「ご当地検定」には「人材育成」の方向性と「地域学」の方向性があることから、「ご当地検定」のもたらす効果はこの方向性に沿ったものと考えられることができる。

第1に「人材育成」の側面であるが、観光などの地域産業に従事する人たちがその産業に関して学習を積み重ねることは、当該産業のレベルを向上させて競争力の源泉となるとともに、人材開発を通じてその産業の底辺を拡大することにつながるであろう。

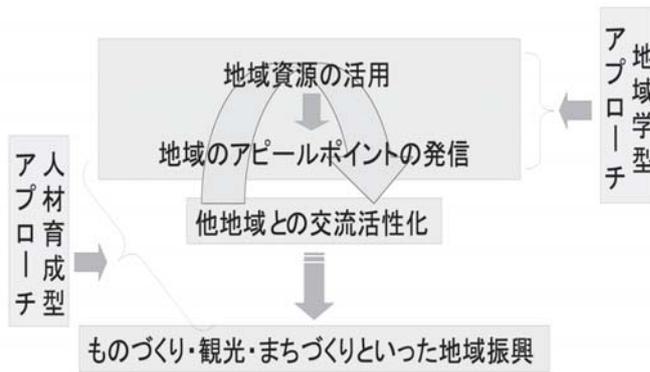
また、現在のように、観光が地域産業活性化の戦略的分野となっている地域が多く、それら地域間の競争が激しくなっている状況下では、特に観光産業は「人」の資質に依存することの多い産業であるため、観光産業およびその周辺産業関係者のレベルアップが必要とされていることは論を待たない。それに加えて地域住民全体のホスピタリティの質の向上も同時に必要とされている。事業者のレベルを引き上げ、同時にホスピタリティ向上の裾野を広げる、こういったことを広範かつ効率的に実施するためには、参加者が楽しみつつ同時に資格取得の満足感を与えるような「ご当地検定」の特徴を活かし、易しいクラスから専門的なクラスまで多段階の級を設定して実施することが、効果的な方法であることは容易に考えられることである。

第2に「地域学」的な側面であるが、このような地域資源に関する認識や関心が高まることを通じて、この地域資源を維持、発展させようとする試みや、それらを活用する試みが活発化する契機を提供する効果が考えられる。たとえば、ある景観の保全の議論を行うにしても、その景観の持っている価値について多くの人々の理解を得ていないとその事業は進まない。その際、地域資源などに関する共通の理解の土台ができていれば、より有意義な議論や活動が可能となるであろう。どのような地域

資源があるかを把握し、それらを活用して地域のアピールすべきポイントを作り出していく過程では、地域資源の再認識、共有化を図っていく、「地域学的」な取り組みが必要となってくるであろう¹⁸。

その場合でも、さらにそのアピールポイントを情報発信して、地域間交流を活発化させ地域振興に結びつける過程においては、観光産業などのレベルアップ、地域全体のホスピタリティ向上は不可欠であり、そこでは「人材育成」の取り組みも必要とされるであろう。この関係を図示すると図表8のようになる。

図表8 地域戦略と「ご当地検定」の役割



出典：日本政策投資銀行作成

また、もう少し一般的な地域プロジェクト展開の問題に議論を広げて考えてみよう。図表9は日本政策投資銀行、九州経済調査会〔2003〕における、事例分析から帰納的に得られた、比較的進展している地域振興プロジェクトの展開プロセスを整理したものである。そこでは、厳しい事実認識や再生ビジョンの共有から、小規模な取り組みを積み重ねていき、場合によってはイベントなど楽しみも入れながら活動を持続・継続していくプロセスが整理されている。

18 この考え方は、各地で活動がみられるようになってきた「エコミュージアム」(松山市でいえば「フィールドミュージアム」)の発想や手法と共通したものがある。